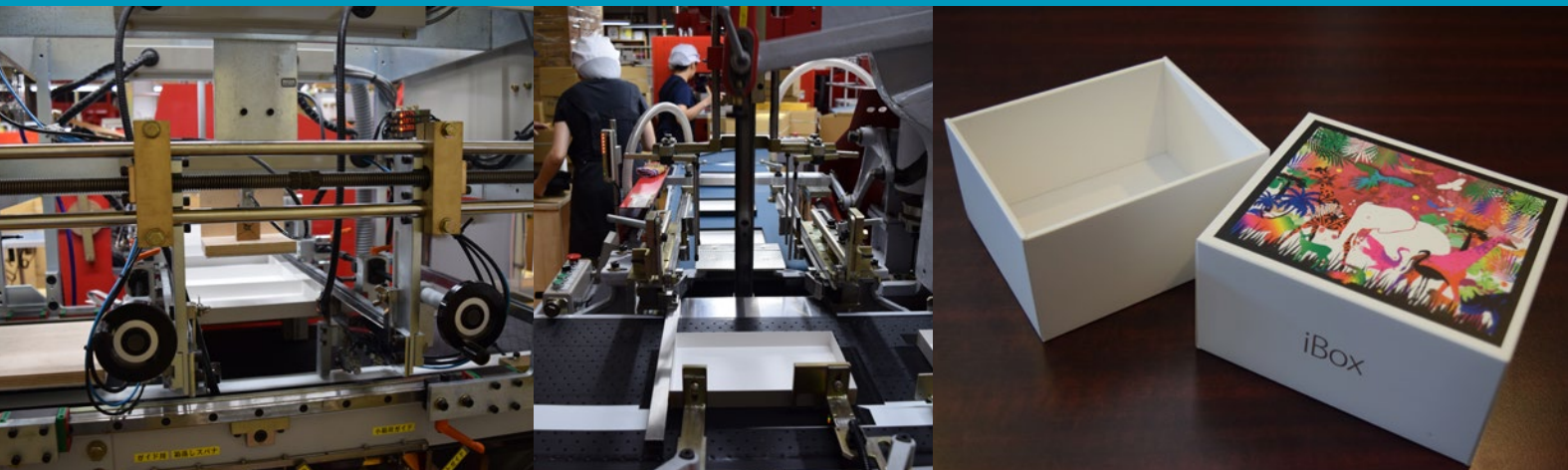


愛星パック株式会社



■ 三つのセンサーで距離を測定し、位置合わせする

■ 貼紙上に位置合わせされた箱

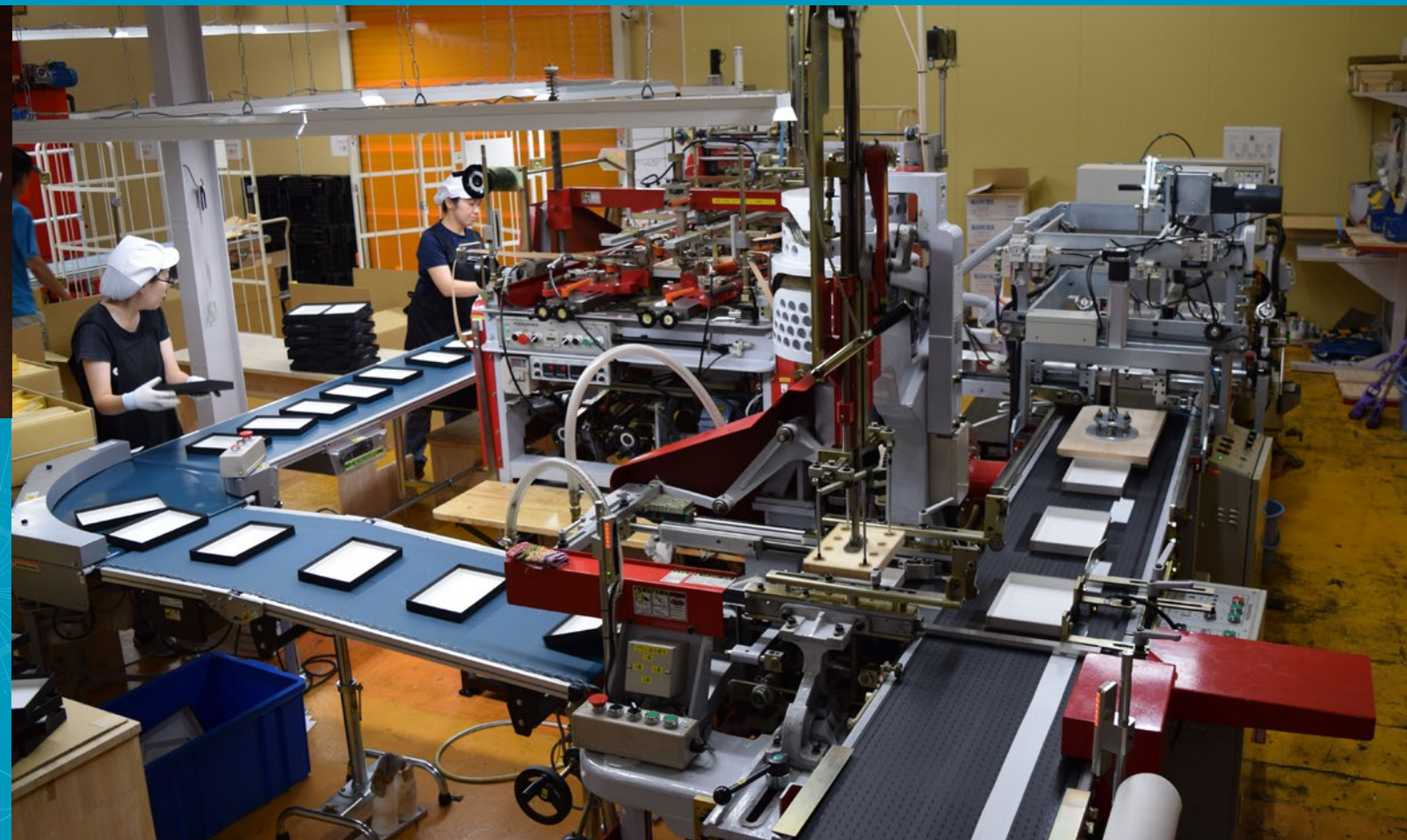
■ 新製品開発にも意欲を燃やす



貼箱を専門とする紙器メーカー

data : あいせいぱっく

代表者役職名・氏名 / 代表取締役・星野雅昭
 設立年月日 / 平成5年2月1日
 住 所 / 〒491-0201 一宮市奥町字郷浦57番地
 電 話 / 0586-52-6485
 F A X / 0586-52-6486
 U R L / <http://www.aiseipack.com/index.php>
 E-M a i l / h-hoshino@aiseipack.com
 資 本 金 / 1000万円
 業 種 / 紙器製造業
 従業員数 / 25人



■ 完全自動化された小型貼箱の製造ライン

バレンタイン向け需要に応える

愛星パックは貼箱専門の紙器メーカー。主に菓子、雑貨、小型家電の贈答品用や記念品用など高級な貼箱を手がけている。

貼箱はニッチ市場だが、ここ10年ほど急激にバレンタイン商戦が過熱し、年末に大きく需要が伸びる傾向が続いている。バレンタイン向けは短納期で大量に高品質な貼箱が求められるため、生産は容易ではない。特に同社は、需要の中心である小型貼箱の製造ラインに弱みがあった。位置合わせの工程を手作業で行うため、ロット数が万単位にまで大きくなると位置ずれや汚れ

が多発。機械と違い生産時間が前後するので納期も読みにくかった。何より作業者への負担が大きく、星野浩隆部長は「年末はお歳暮向けとも重なり、凄まじい忙しさだった」と振り返る。安定したモノづくりで商機をつかむには、小型貼箱製造の完全自動化が必須だった。

小型貼箱の位置合わせ自動化

そこで「平成28年度補正革新的なものづくり・商業・サービス開発支援補助金」を使い「S型全自動貼箱機」を導入した。

ラインのスタート地点ではまず、箱に貼る形状にカットされた貼紙を送っていく。次に貼紙に糊を塗布し、一方

で箱を補強のためにテープ留めする。さらに、糊を塗布した貼紙上の定位置へテープ留め済みの箱を置いていく。これが「位置合わせ」工程だ。最後に、貼紙を箱の内側へ折り込んでラッピングし、完成。検品工程へ移る。

従来は目視で貼紙上の位置を確かめ、手で箱を置いていた。これに対し導入した機械は三つの光センサーで距離を測定し、自動で箱を置く。流れてくる都度、測定するので紙と箱がどんな位置や向きで流れてきても位置ずれしない。手作業で発生しがちだった糊汚れもなくなった。

生産効率向上、作業負担は軽減

機械導入で生産スピードは格段

自動貼箱機導入により小型貼箱製造の全自動化実現。 生産効率アップし、作業者負担も大幅に軽減

にアップし、従来は14日ほどかかる内容の受注を3日以内でこなせるようになった。

不良はほぼゼロになり、検品の負担も軽減。製造起因の納期遅れもなくなり、高品質なものを期日内に納められている。現在、小型貼箱ラインは日産約1万2000個を誇る。納期が正確に読めるので大ロットにも躊躇なく挑戦できるようになり、平成30年には100万個を超える大型受注を獲得した。

星野部長が特に評価するのは、人への負担が軽くなった点だ。機械導入から2年間、年末の残業はあっても1日90分程度で、落ち着いて繁忙期を乗り越えられている。「年

末に新たな注文が積み上がるとうれしい半面、正直に言えば苦しい気持ちもあった。いまはストレスなく受注できる」(同)。

新しい時代 楽に良いモノづくり

成果をふまえて星野部長は「同じ結果なら、なるべく苦労せず良いモノを作る道を探るべき。令和という新しい時代を迎え、単純に苦労すれば良い結果が生まれるという古い考えを革新したい」と意気込む。変化を追求し、今後についても「自己満足ではなく、顧客が価値を見出してくれる製品を作りたい」と製品開発に意欲的だ。

現在は、かねて顧客の要望が高

かった“「iPhone (アイフォン)」の箱のような貼箱”、「iBox (アイボックス)」(商標登録申請中)の拡販に取り組む。同製品は別途導入した機械を活用して開発したもので、シャープな角、高級感のある硬さ、フラットな面、貼紙のエンドが見えない点など、貼箱らしくない高級ケースのような仕上がりだ。

平成30年10月に開催された東京国際包装展「TOKYO PACK 2018」で初披露後、順調に販売数を伸ばしながら品質を進化させている。

新しい時代の新しいモノづくりを切り拓くため、今日も知恵を絞り続ける。